

鹿児島県工業倶楽部
2017新年大会特別企画

JICA (国際協力機構)

『中南米日系社会との連携調査団』
セミナー(参加自由, 申込制)

- パラグアイ
- アルゼンチン

SPEAKER



豊歳 直之
駐日パラグアイ共和国大使

TALK SESSION



斉藤 頭生
JICA 中南米部 審議役



謝花 一成 (派遣団員)
リュウクス 代表



上田平 重樹 (派遣団員)
インターマン 代表

未来はチャンスにあふれる！

「南米日系ビジネスとの連携」

2017年1月17日 (火)

城山観光ホテル ロイヤルガーデン

15時 工業倶楽部講演(無料)

16時 JICA セミナー(無料)

18時 Party (会費制)

問合 info@ikic.or.jp 099-225-8012



豊歳 直之（とよとし なおゆき） 駐日パラグアイ共和国特命全権大使



1936年日本で出生。大学卒業後アルゼンチンにおいて9年間勤務の後、1969年にパラグアイに移住。同年、日本の自動車輸入会社であるトヨタシ(株)を設立。2001年に日本・パラグアイ学院基金を設立。パラグアイ経済発展における職業的功績や献身を高く評価したパラグアイ政府は、1991年功績を称えた功労賞、1998年コメンダドール国家勲章、2006年日本国外務省より功労賞、同年、明仁天皇陛下より日本国勲章、旭日小援章を授与された。2009年に大使に就任し97年間の両国友好関係を更に強化し、文化交流、日本人投資家に対して成功を約束する投資先としてのパラグアイの持つ潜在能力の紹介などに力を尽くしている。

斉藤 顕生（さいとう あきお） 国際協力機構(JICA) 中南米部 審議役



1964年生まれのおとめ座。北海道生まれ、北海道育ちであるが、先祖を辿ると、香川、栃木、秋田そして福岡（祖父）。幼少の頃よりスキーに明け暮れるも、現在の趣味はゴルフと美味しい日本酒探し。故郷北海道への熱い思いを残しつつ東京で民間銀行へ就職。銀行時代にブラジルへポルトガル語学研修生として派遣され、現地法人勤務も経験（92年～95年）。2001年国際協力銀行（JBIC）に移り、南アジア地域を担当後インド事務所次長として赴任。2008年JICAとの統合後、欧州課長、トルコ事務所長等を経て現職に至る。福岡出身の実祖父は戦前・戦中に樺太に渡り、一旗あげようとした人物と聞いており、祖父のDNAを日々感じている。

謝花 一成（じゃはな かずなり） 株式会社リュウクス 代表取締役



1966年生まれ。WUB（世界ウチナーンチュ・ビジネス・アソシエーション）沖縄 理事。2016中南米日系社会との連携調査団参加。現在、琉球大学観光産業科学部産業経営学科夜間主コース4年在学中。リュウクスは石炭火力発電所から排出される石炭灰を有効利用した、コンクリート混和材「加熱改質フライアッシュ」の製造・販売を行うことで、廃棄物の削減による環境保全とコンクリート構造物の高耐久・長寿命化の実現によるコンクリートの早期劣化問題の解決を目指す。今回、中南米日系社会との連携調査団では南米におけるビジネス展開の可能性調査と沖縄県日系人を中心とした日系社会とのネットワーク構築を目的として参加した。

上田平 重樹（うえたひら しげき） インターマン株式会社 代表取締役社長



1967年日置市生。学生時に起業するかたわら、ソ連占領下のアフガニスタン・パキスタン国境など世界中を放浪。1991年同社設立。オフィス通販「アスクール」医療部門で全国一の販社に成長。モノづくりではグッドデザイン受賞のBodyphonをみずから開発、地球大での普及を睨む。現在グループ会社を含め農水産、土木建築、バイオマスエネルギー活用、廃校利用、原子炉配管遮水など展開。バックパッカーのスピリットを忘れることなく世界へ、2011年LA出張ついでに友人とチリでの学会へ。そのまま南下しパタゴニアでクリスマスと年越し。これで南米との切っても切れない絆ができ調査団へ参加することとなる。趣味は釣り、スキー、ボード。ここ数年は、アルゼンチン大使館でも披露した美声でテノールの歌手としても知られつつある。
の日本

（公社）鹿児島県工業倶楽部 新年大会参加申し込み(参加項目に○×記載)

FAX : 099-225-8020 / E-mail : info@ikic.or.jp

会社名	氏名	講演	Party (¥5000)

※ Partyに参加される方は、おひとり5000円のご負担をお願いします。当日のキャンセルにつきましては、後日費用を請求させていただきますB